



若年がん患者在宅療養支援事業費補助

神奈川県健康医療局

令和7年度当初予算額：318万円

(1) 目的

- 40歳未満の末期がん患者の方が、住み慣れた自宅で最後まで安心して自分らしい生活ができるよう、在宅生活に必要な経費の一部を補助し、患者とその家族の負担を軽減する。

(2) 課題等

- 40歳未満の末期がん患者は、40歳以上が対象となる介護保険制度の対象外であることから、在宅療養に係る費用の支援を受けることができず、経済的負担となっている。
- 県は、令和4年度より事業を開始したが、実施市町村は、現在、県事業開始前から実施する市を含めて7市にとどまり、居住市町村によっては支援を受けられない。

実施市町村

【実施中】

横浜市、川崎市、相模原市、
鎌倉市、藤沢市、大和市、
海老名市

【令和7年度検討中】

5市町

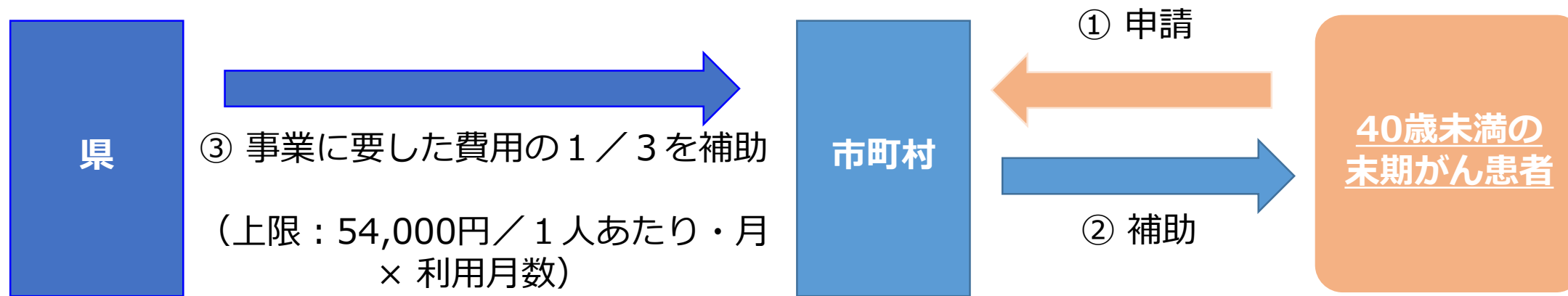
(1) 事業内容

市町村が、在宅生活に係る経費の一部を助成する事業を実施した場合に、その費用の一部（1 / 3）を補助する。

＜在宅生活に係る経費(例)＞

- 在宅で生活するために必要な医療・福祉サービスに係る費用
（訪問介護、訪問入浴介護等）
- 福祉用具・介護用品の貸与又は購入等に係る費用

(2) 事業イメージ



○ 令和7年度スケジュール（例年同様）

※ 年度途中でも交付申請可

令和7年				令和8年	
4月	5月	8月頃	12月頃	3月	4月
交付申請	交付決定	8年度実施 見込調査	7年度所要額 見込調査	変更交付申請 期限	各市町村へ 支払

未実施の市町村におかれては、実施についてぜひご検討いただきたい。

県HPにて実施自治体の情報を掲載しています。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/nf5/ganntaisaku/shyouniaya.html>

4 若年がん患者支援について①

(1) 県内若年がん患者の状況

	罹患者数	死亡者数
令和2年	1,556人	148人
令和元年	1,618人	152人
平成30年	1,622人	166人

対象数は、各市町村の人口比からすると、決して過大なものではないと思われます。

出典：全国がん登録

【参考】罹患者率が高いがん種（全国）

	1位	2位	3位
0～14歳	白血病<38%>	脳腫瘍<16%>	リンパ腫<9%>
15～19歳	白血病<24%>	胚細胞腫瘍・性腺腫瘍<17%>	リンパ腫<13%>
20～29歳	胚細胞腫瘍・性腺腫瘍<16%>	甲状腺がん<12%>	白血病<11%>
30～39歳	女性乳がん<22%>	子宮頸がん<13%>	胚細胞腫瘍・性腺腫瘍<8%>

出典：小児・AYA世代のがん患者データ2009～2011（国立がん研究センター）

(2) 患者・家族等の声

- ・ 自宅で、介護費用等の支援を受けながら、家族と一緒に最期まで充実した時間を過ごすことができた。
- ・ 住んでいる市町村で、受けられる支援に差が生じないようにしてほしい。

【参考】国への提案

県では、令和4年度から、国に対して、国が全国一律で支援を行うよう提案。

＜令和7年度国の施策・制度・予算に関する提案＞（令和6年7月）

末期がんの若年がん患者が、住み慣れた生活の場で安心して自分らしい生活を送れるよう、訪問介護サービスや福祉用具の購入等、在宅で生活するために必要な経費に対する支援制度を国として構築すること。

※令和7年度も引き続き提案予定。

問合せ先

健康医療局 保健医療部
がん・疾病対策課 がん・循環器対策グループ
電話：045-210-5015